

顔が見える家づくり

アーキコープ

札幌で展示・相談会

全国設計事務所協同連絡会（アーキコープ）は10、11日の両日、札幌アクトリオの北ガスショールームで、札幌家づくり展を開いた。これまで手掛けてきた作品の写真や制作資料を使い、来場者に家づくりへの思いを伝えた。

2010年に発足したアーキコープは、設計・施工の分離や建築士の職能の社会へのアピールを目的に、専門の設計事務



所が中心となって組織。建築工事価格の統一・透明化に取り組むなど全国で幅広い活動を展開している。

同展の札幌開催は3月に続いて2度目。今回は「家族の顔が見える づくり手の顔が見える 設計者の顔が見える 家づくり」をテーマに掲げた。

来場者に家づくりへの思いを伝え

札幌地区のメンバーである矢倉建築設計室、中島建築設計、お茶の水設計工房ツキサップアトリエと、大岡産業、住宅金融支援機構北海道支店がブースを設け、来場者の相談や質問に応じた。

17、18日には帯広市昭和町の吉川サロンで「作り手と一緒に考える家づくり」をテーマに展示・相談会を開く。両日とも午前10時から午後5時まで。